

事業所名

子ども支援センターはままつ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025

年

10

月

1



法人（事業所）理念		子どもたちが安心して挑戦できる環境を整え、家庭・学校・地域が一体となって成長を支える場をつくります。												
支援方針		日々の生活の中で子どもたち自身が考え、選び、行動する経験を大切にします。職員全員が協力し、柔軟に支援を調整しながら、自信と自己肯定感を育てます。												
営業時間		9	時	0	分	から	18	時	0	分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	・子ども一人ひとりに応じた日々の約束事（活動・宿題・ゲームなど）を自分で決め、ふり返る習慣を身につけます。 ・来所から帰りまでの流れを自分で整えられるよう支援し、持ち物整理・手洗い・片付け・時間管理などの生活スキルを育てます。 ・生活の中で「できた」「がんばれた」という実感を積み重ね、自分の生活に自信を持てるよう促します。												
	運動・感覚	・体を動かす楽しさを感じながら、姿勢・バランス・集中力を養います。 ・制作活動や遊びの中で、手先の器用さや力加減を学びます。 ・ゲーム・工作・リズム活動などを通して、自然に身体を使う経験を増やし、心と体の調和を図ります。												
	認知・行動	・自分で立てた目標や活動をふり返りながら、順序立てて考える力・見通しを持つ力を育てます。 ・プリント学習やゲームの課題、実体験を通して、数量・時間・空間などの理解を深めます。 ・「終わりまでやり遂げる」「できたことを確かめる」体験を重ね、自己肯定感と意欲を高めます。												
	言語 コミュニケーション	・日常の会話・話し合い・紙芝居・ロールプレイなどを通して、自分の考えや気持ちをことばで表現する練習を行います。 ・相手の話を聞く姿勢を大切に、言葉のやり取りの中で相手の気持ちを理解する力を育てます。 ・絵や文字、身近な物を使って伝える活動を取り入れ、「伝えたい」「わかってもらえた」という体験を重ねます。												
	人間関係 社会性	・友だちとの関わりやグループ活動を通して、相手の気持ちを考えながら行動する力を育てます。 ・ソーシャルスキルトレーニングや協力遊びの中で、声のかけ方・待つこと・譲ることを学びます。 ・トラブルが起きたときには、その場で気持ちを整理し、次にどうすれば良いかを一緒に考え、安心して関われる関係づくりを支援します。												
家族支援		保護者との面談や送迎時の対話を通じて、家庭での様子や子どもの変化を共有し、センターでの支援につなげます。お子さんのがんばりや課題を日々共有し、保護者が安心して相談できる関係づくりを大切にします。必要に応じて家庭での工夫や声かけ方法と一緒に考え、家庭・センター・学校の支援が連続するよう支援します。また、保護者からの意見や気づきを職員間で共有し、支援内容の見直しに反映します。								移行支援		子どもの将来を見据え、発達や生活面の様子を継続的に評価し、保護者と意向を共有します。学校や関係機関と連携しながら、進学・就労など次の段階に向けた支援体制を整えます。		
		学校・福祉・医療など関係機関と継続的に連携し、情報を共有しながらお子さんの支援を一体的に進めます。必要に応じて連携会議を開き、支援目標や対応方針を確認します。								職員の質の向上		職員全員で支援の方向性を確認しながら、日々の実践を通して共通理解と支援力の向上を図ります。必要に応じて内部ミーティングやケース検討を行い、経験を共有し合うことで支援の質を高めます。		
主な行事等		季節の行事や社会的体験を通して、子どもたちが楽しみながら成長できる活動を計画的に行います。年間を通じて、季節・文化・地域とのつながりを感じられる行事を取り入れ、生活のリズムづくりと社会性の育成を図ります。実施にあたっては、子どもの意見や興味を反映し、職員が協力して柔軟に内容を調整します。												